p.3

1 送りがな

●基礎演習●

〔解　答〕

1 ①花開(ク)。　②天(ハ)長地(ハ)久(シ)。
2 ①月白(ク)、風清(シ)。　②孔子(ハ)魯人(ナリ)。
③驕(ル)者(ハ)亡(ブ)。　④三(タビ)戦(ク)。
⑤雨止(ミ)、夕陽出(ツ)。　⑥風光明媚(ナリ)。

解説

2 ②「魯人」「ろじん」と読んでは誤り。「国名＋人」のとき、「人」は必ず「ヒト」と訓読するのが慣用である。

④「三（みたび）」は、副詞であるから、送りがなは最後の一字「ビ」だけでよいようだが、読みやすくするため「タビ」の二字を送りがなとする。

「**たたかう**」は、現代かなづかいであるから、動詞の活用語尾の送りがなは「戦(ク)」と歴史的かなづかいで表記する。

⑤「**いず**」は、現代かなづかいであるから、動詞の活用語尾の送りがなは「出(ツ)」と歴史的かなづかいで表記する。

p.4

2 返り点

例文3　「悪」「悪」（にくむ）の読み方に注意。憎む・いやがるの意。この意のとき音読は「ヲ」で、憎悪・好悪・嫌悪の悪がこれにあたる。

p.4

●基礎演習●

〔解　答〕

1 ①5 1 4 2 3。　②4 5 2 レ 1 3。
③5 レ 4 1 3 レ 2。　④6 1 5 レ 4 2 3。
⑤7 下 5 3 4 2 レ 1 6 下。
⑥8 下 2 3 1 7 甲 5 レ 4 6 下。

p.5

2 ①1 5 レ 4 レ 3 レ 2。　②1 2 5 3 4。
③5 レ 4 2 レ 1 3。　④5 1 2 4 レ 3。
⑤6 下 1 4 2 3 5 上。　⑥6 1 5 レ 4 2 3。

3 ①ひとをあいする（こと）あたはず。②こじんすんいんををしむ。③かしょをつくらんとほっす。④またうさぎをえんことをこひねがふ。⑤われひにわがみをさんせいす。⑥たてとほことをひさぐものあり。

4 ①聞レ一以知レ十。 ②人与吾千里馬。
③不下為二児孫一買中美田上。

解説

1②⑤⑥ **中線**を使用している。中線は使われない場合もある。たとえば、A B C D のとき、AとBとが切り離せない熟語A Bであるなら、AとBとの間に中線がなくても、返り点の二はA Bにかかる。読む順は中線が使われているときと同じく、C D A Bの順で読む。また、□一□一□のように三字をつなげるときがある。

2⑥ 6 1 5 4 2 3 は誤り。5に返り点「二」がないかぎり、6にはもどれない。6 1 5 4 2 3 も誤り。「上・下」点を使うときは、「一・二」点が「上・下」点の間にはさまれていなければならない。

3①「不レ能」は、「不レ能レ――」の形で、「――スル（コト）あたハず」と読み、「――することはできない」の意。

③「欲」は、「欲レ――」の形で、「――ントほっス」と読み、㋐「――したい」 ㋑「（今にも）――しそうである・――なりそうである」の意がある。ここでは㋐。（P.19参照）。

「家書」は、ここでは「家族へのたより」であるが、「家族からのたより」の意もあるから注意しなければならない。

⑤返り点が「吾日三省吾身。」とついているときは、「吾日に三たび吾が身を省みる。」と読む。

⑥「与」は、各種の読み方がある。（p.61参照）

4①「以」は、手段・接続・原因・目的語を強めて倒置等の働きがある。ここでは接続、「そうして」。（p.56参照）

問題文の口語訳

p.5

3①人を愛することができない。
②昔の人はごく短い時間を大切にして努力した。
③家族へのたよりを書こうと思う。
④再び兎を手に入れることを心から願った。
⑤私は毎日何度も自分を反省している。
（※「三省」については「三つの点〈「為レ人謀而不レ忠乎・与朋友交而不レ信乎・伝レ不レ習乎〉について反省する」と解釈する説もある。）
⑥楯と矛とを売る者がいた。

4①一を聞くと十のことを知り悟るほど理解力がすぐれている。
②ある人が私に一日に千里も走れる名馬を与えた。
③子孫に残すためによい田を買うことはしない。

p.6

3 読まない字（置き字）

⊙**而** 順接と逆接とがある。その区別は文意による。

置き字ではなくて読む場合がある。例文3は置き字であるが、「而」を読むようにすれば、「折レ頸而死。」となる。順接のとき、上の語に「…テ・…シテ」の送りがなをつければ、「而」は置き字となる。逆接のとき、上の語に「…ドモ」の送りがなをつければ、「而」は置き字となり、「…ドモ」の送りがながつかなければ、「而」を「しかルニ・しかレドモ・しかルヲ」と読む。

p.6 ●基礎演習●

〔解答〕

（線を引く字） ①乎 ②矣 ③焉 ④於 ⑤而・于 ⑥而

解説

③漢文を訓読する際、普通、「き・けり・つ・ぬ・たり・り」等の時を示す助動詞を使わない。ここでは「感歎せり」と「り」を使っている。この読み方は慣用的なものである。「聞く者感歎す」と読んでも誤りではない。

問題文の口語訳

p.6

①東にあるいは西にとあちらこちらをかけめぐる。
②もはやその力をある限り出し尽くした。
③《その話を》聞いた者は感心して褒めた。
④私のしゅうとは虎に食われて死んだ。
⑤自分は十五歳で《君子の》学に志した。〈志学〉
⑥木が静まろうとしても、風が吹きやまず、思いどおりにならない。〈子が親を養って孝行をしたいと思う頃には、親は死んでこの世にいないたとえ――風樹之嘆〉

p.7

4 書き下し文

例文1「国破」の「国」は都の意。詩語として用いられる「国」は、国家の意はなく、㋐都、㋑故郷のいずれかである。「破」は、秩序が乱れる意で、敗戦の意ではない。

例文3「不レ学」は、「学ばずンバ」と読んでもよい。「道」は道徳の意。「回」は、孔子の弟子顔回の名、字は淵である。また、「哉」は例文では読んでいるが、置き字扱いして、「賢哉」のように